所報

氷見市教育研究所
〒935-0016　氷見市本町４－９
（氷見市教育文化センター内）
TEL　0766-74-8221
FAX　0766-74-5520
e-mail　kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm

回　　顧

氷見市中学校長会
会長　澤田　憲三

私は今年度末で定年を迎えます。長い教員生活を振り返ってみると、多くの先輩から頂いた沢山の教えが、懐かしく思い出されます。反面どれだけ人間として、教員として自分自身が成長することができたかと、自責の念にもかられているこの頃です。

私の初任校は魚津工業高等学校です。私が所属した機械科の科長さんが、教師として、人生の先輩としていろいろなことを教えてくださいました。「新採教員だからといって、誰も特別扱いをしてくれないし、先輩自らは教えてくれないよ。困ったことがあれば、自分から遠慮せず積極的にアタックしなさい。そしてまた、先輩がやっていることや話していることをよく見て盗みなさい。そのためには、アンテナを常に高く張り巡らしておくことが大切だね。」「私は、挨拶にこだわりがあるんだ。向こうから歩いてくる人に対して、自分の方から先に挨拶するように心掛けているんだ。もし先を越されたら、相手の声よりも明るく元気な声で挨拶を返すことにしている。挨拶は元手をかけなくても、挨拶をされた人に幸せな気分を与えることができるんだよ。実践しない手はないね。」

２つ目の勤務校は、こまどり養護学校。着任早々の歓迎会で、一人の先輩から「教育の原点は養護学校にある。」と説かれました。それから２週間程過ぎた頃、昼の休み時間ごとにＹ先生の周りに数名の子どもが集まって来ているのに気が付きました。子どもたちをよく見ると、Ｙ先生が担任をしている子どもばかりではないのです。そして、その子どもたちがそれぞれに「僕の先生」「私の先生」と言いたげな顔をして手をつないだり、服の端を引っ張ったり、Ｙ先生にほおずりをしたりしているのです。養護学校の子どもは、人の心の真価を敏感に見抜くという事実を見せてもらった気がしました。

教頭時代には、素晴らしい校長先生に恵まれました。「管理職は、部下の手本とならねばならないよ。言動や一挙手一投足に気を配らなければー。」「『実るほど頭の下がる稲穂かな』の精神を忘れず、謙虚であることが何より大切です。」「上に立つ者は、決して短気を起こすものではありません。」等、折にふれ心に響く教えを頂きました。

そして　校長の辞令を頂いた時は、先輩から「校長として、先生方一人一人が意欲的に働いてくれるような、働き甲斐のある職場の雰囲気づくりが必要ですよ。」「見る気がなければ何も見えない。聞く気がなければ何も聞こえない。一人一人をよく観察し、労（ねぎら）いと励ましの言葉掛けを忘れないこと。」「何事があっても、決して部下を責めることなく、黙って校長が責任を取る覚悟をしておくこと。」と助言をもらいました。

このように、私は沢山の良き先輩に恵まれ、多くのアドバイスを受けながら教員生活を送ってこれました。本当に感謝しています。後輩の先生方には、教員としての在り方を、自分自身でよりよいものに「拓（ひろ）げる」努力をお願いしたいと考え、紹介しました。

【氷見市立窪小学校】

英語活動推進校としての取り組み
英語活動の研究実践

来年度、新学習指導要領に外国語活動が導入されるこの時期に、本校が「小学校英語活動推進事業」の指定を受けたことは、まさに好機到来と言える。本校では、１年間の研究期間を充実した研究とするため、高学年の担任教諭を中心に英語活動の進め方について十分に話し合った。その話し合いを通して、全教科、領域において研修主題である「コミュニケーション能力の育成」を目指し、英語という媒体を通してその実現を図ることとした。その際、４学年までの子供たちにも英語に触れ、親しむ活動を視野に入れ、全校的な体制で取り組むことにした。

１　授業を通しての研究推進

円滑にコミュニケーションを図るには、話し手と聴き手（※本校では、「聴き手」を用いる）の力のバランスが重要である。話し手は、相手に伝えようという強い思いや願いをもたなくてはいけない。その思いが身振り、手振りや豊かな表情に自然な姿で表れてくる。

聴き手は、相手の気持ちや考えを理解するため、目をつないで自然にうなずいたり、あいづちを打ったりするようになる。また、最近よく耳にする「空気を読む」の言葉のように、相手が口に出していない感情までも推測できるようになることも期待されている。この「伝えたい」「聴きたい」という願いを英語活動につなげ、総合的な学習の時間との関連を図った。５年生では「自分の好きな場所を紹介する」、６年生では「地域の自然や文化、伝統芸能について伝える」活動を取り入れ、授業実践を通して研究を展開した。

＜英語でインタビューをしている様子＞

２　全校での取り組み

低・中学年では、「朝の歌」の時間や木曜日に全校で一斉に歌う「ミュージックタイム」を活用して簡単な英語の歌を歌っている。また、昔から歌われてきた日本の歌を英語に訳して歌うことに挑戦し、ＡＬＴやＪＴＥの小谷先生に協力していただき、「かえるの歌」「海」を英語の歌詞に直して全校で歌った。この活動は、英語と子供たちの距離をぐっと近づけ、自然な形で触れ、慣れ、親しませることができた。

水曜日のロング休憩を利用して、ＡＬＴに英語の本の読み聞かせをしていただく活動は、多くの子供たちが集まり、いつでも、どこでも触れることができる「英語」ということで大変有意義であった。

＜英語での読み聞かせの様子＞

３　１年間の取り組みから学んだことと今後の取り組み

何と言っても英語嫌いな子供をつくらないことがまず大切なことである。「読み、書き」は文法の学習に結び付いてしまいがちで、小学生には難しい。できるだけ多くのネィティブな英語を耳にし、表情豊かに楽しく伝え合う。伝えたい気持ちが強くなれば、難しい単語も使わなくてはならないが、簡単な単語や言い回しで、足りないところはジェスチャーで表現し補う。このような無理のない楽しい活動が、小学校で求められている外国語教育の目指す姿だと考える。私たちは、来年度の外国語活動の本格実施に向けて、今年度の研究成果と反省を踏まえ、今後とも研究を推し進めることにしている。

研究委員会からの報告

郷土学習資料研究委員会

「郷土学習資料　ひみ」の改訂作業に携わって

西條中学校　上　　隆義

今回、改訂作業に携わって、「郷土学習資料ひみ」が氷見市の自然や歴史、政治や産業、伝承文化等について、実によくまとめられていることが分かりました。多くの方々の協力と、資料・文献等を基に編さんされており、内容も豊富です。

平成22年4月、氷見高校と有磯高校の再編でスタートする新高校の目玉の一つに、全校生徒が、地域の自然や産業等について理解を深める「氷見学（仮称）」の学習があります。「郷土学習資料ひみ」の内容は、まさにその“氷見学”ではないかと思いました。

資料中に掲載されている写真や追加の写真を収めたCDと併せて、改訂版「郷土学習資料ひみ」の活用をお願いします。

英語活動研究委員会

Let's enjoy English！ ー小・中連携を通してー

女良小学校　西川　よし子

学習指導要領の改訂により、小学校5・6年生において週1時間の外国語活動が始まります。本委員会では、一昨年度の研究委員会の成果を踏まえ、小・中学校の子どもの姿から新指導要領の趣旨を捉えることに努め、実践やワークショップに取り組んできました。

コミュニケーションを通して交換されるものは言葉と感情です。そこで、意味のある文脈のなかで活動できるよう動機づけを大切にしたいと考えました。積極性・寛容・丁寧さなど、コミュニケーション能力の素地といわれる資質の育成につながる実践について検討してきました。そして研究所のお世話をいただき、実践事例集にまとめました。各校で、さらに工夫していただければ幸いです。

学力向上研究委員会

今からでもOK！ 家庭学習の習慣を

宇波小学校　谷内口まゆみ

「親しみやすく、読みやすく」を合い言葉に、「ひみ型家庭学習の手引きーきときとひみっ子学びのステップアップー」作成に取り組みました。

「全国学力・学習状況調査」から浮き彫りになった課題を基に、まず、何よりも大切な自己肯定感をはぐくむことを土台とし、付けたい力を意識してステップアップしていけるよう提示しました。個人差に対応でき、今すぐにでも始められるように構成を工夫しました。

どのページも氷見らしいイラスト「学ブリ君」が案内します。各学校の取り組みと併せて活用していただければ幸いです。

<学ブリ君>

健康な体づくり研究委員会

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を受けて

久目小学校　本川　久直

今回、明らかになったことは、運動習慣・基本的生活習慣が身に付いている子どもの体力合計点が高いことです。また、運動をほとんどしない小・中学生の女子が多数いることです。今後は、各校が自校の児童生徒の状況を十分に把握し、体育・健康に関する指導の改善へと取り組んでいくこととなりますが、次の2点に留意したいものです。①児童生徒に自己の結果から課題をもたせる。そして、家庭・地域との連携を十分に図る。②各校の教育課程に取り組みを位置づける。（例：具体的な指導目標を立て、運動の日常化や生活習慣等の改善を図る。運動量を確保し、児童生徒が主体的に取り組む体育授業の指導改善を図る。）

学校全体としての継続した取り組みに大きな期待が寄せられています。

平成20年度　教育論文・教育実践記録の審査結果

本年度は、小学校１４点、中学校１点の教育実践記録が寄せられました。２０代から４０代までと幅広く、内容も、教科・領域に偏りなく応募がありました。２月１０日（火）に表彰式を行い、一席の窪田絵美教諭に発表をしていただきました。実践記録を書くには大変な労力がいりますが、年度当初に書こうと決めることで確かな計画や実践が生み出されるとともに、子供を見る目が育ち、自分を振り返る機会にもなり、結果として子供が好きになります。

次年度も、たくさんの応募をお待ちしております。

＜発表をする窪田教諭＞

	学校名	氏　名	研　究　主　題
一席	朝日丘小	窪田　絵美	自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする子供の育成を目指して ～２年間にわたる「いのちきらりプロジェクト」を通して～
二席	比美乃江小	川渕　公昭	生活課題を見つけ、主体的に問題解決的な学習を進める子供の育成を目指して －第５・６学年における２年間の家庭科教育を通して－
	宇波小	北元　文子	かかわる力を伸ばし、自信をもって楽しく活動する子どもを育てるために －特別支援学級２年間の歩みを通して－
三席	比美乃江小	西田　奈々	特別支援教育、できることから始めよう！ －みんなで支援・みんなが資源－
	窪小	金原　礼子	英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする子供を目指して －小学校第６学年の英語活動の取り組みを通して－
	仏生寺小	西　裕之	体験活動と言語活動の充実を図る指導の在り方 －総合的な学習の時間での地域学習を核にした実践から－
	海峰小	寺澤　小織	互いに思いを伝え合う温かい学級集団を目指して －学級活動（話し合い活動）の充実を通して－

（※　掲載は、学校番号順）

談話室

「自分は自分だから」

スクールカウンセラー　蘭生　正一

「数人のグループで一緒に行動していますが、次々とターゲットをかえて仲間はずれにされるのでビクビクしています。」

という女子生徒からの相談がありました。他の人に合わせないと生きていきにくい現状が表れています。かといって、合わせることばかり考えていると友達関係に振り回され自分を見失って気持ちが混乱します。

こんな状況から抜け出した生徒が次のように話していました。

「初めは友達に随分気を遣って、イライラしたりどっと疲れたりしていたのですが、ある時から『自分は自分だから』と考えるようになりました。私は意地悪をしたり仲間はずれにしたりはしないし、友達から話しかけられないことがあっても『自分は自分だから』と思うと、深く悩むことが少なくなり、学習や部活動にも前向きに取り組めるようになりました。」

少年期から青年期にかけての発達課題に“自分らしさの確立”があります。周りの人の考えでなく自らの判断に基づいて言動を決定できるようになることです。これが子供から大人への移行で、第二の誕生とも言われ、依存と自立の間で揺れ動くのでとてもつらい成長の過程です。

この女子生徒の場合、母親がその子をまるごと認め受け入れて、“あなたはあなたなんだから”というメッセージを出し続けており、これが支えとなって自分の生き方を方向づけることができたのではないかと思っています。